

## 便潜血検査

消化管に出血があると、便に血液が混じります。大量の出血がある場合は、便が赤色や黒色に変化しているため肉眼でわかりますが、出血が微量の場合は見ただけではわかりません。便潜血反応は肉眼で判断できないような出血を検出するための検査です。

### 目的

大腸がんの早期発見の目的で実施されています。大腸がんは早期では特に症状がありませんので、自覚症状がなくても大腸がん検診を受けることが大切です。早期癌の大部分は大腸内視鏡によって高い治癒が可能になります。

### 採取方法

便の表面をまんべんなくこすり取ります。大腸がんや大腸ポリープがあれば、便の表面に血液が付着している場合が多く見られます。便の表面全体ではなく表面の一部に付着していることが多いので、便の表面をまんべんなくこすり取ることが大切です。また、大腸癌からの出血は常に出ているとは限らないので、検出率を上げるために2回実施することが推奨されています。また、便を採取した容器は冷暗所で保存します。

### 判定

便中ヘモグロビン、便中トランスフェリンの有無を測定します。

#### 便中ヘモグロビン

血液中で最も含有量の大きい蛋白であり、臨床的意義も確立されています。ヘモグロビンは温度が高いほど、時間が経過するほど大腸内の細菌などによって分解されてしまいます。

#### 便中トランスフェリン

血液中の含有量は、ヘモグロビンの1~2%程度ですが、便中の細菌などの影響を最も受けにくく安定しています。そのため、ヘモグロビンの失活を補う補助的な役割とみなされています。

ヘモグロビン	トランスフェリン	解釈
(-)	(-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出血していない（正常）</li> <li>・出血しているが便では不均一に分布しているため採便できなかった場合</li> <li>・出血していない疾患（早期がんの一部、小さいポリープ）</li> </ul>
(+)	(-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出血している（大腸疾患の可能性）</li> <li>・微量の出血で疾患部位が近ければトランスフェリン陰性となる場合がある</li> </ul>
(-)	(+)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出血している（大腸疾患の可能性）</li> <li>・ヘモグロビンより安定しているため上部消化管出血を捉えやすい</li> </ul>
(+)	(+)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出血している（大腸疾患の可能性）</li> <li>・出血量が多いと考えられるので要精密検査</li> </ul>

#### 陽性で疑われる主な病気

##### 上部消化管

・食道がん ・胃がん ・胃潰瘍 ・歯肉出血 ・鼻出血が消化管に流れたものなど。

##### 下部消化管

・大腸がん ・大腸ポリープ ・大腸炎 ・クローン病など

なお、陽性すなわち消化管からの出血とは限りません。白血病などの血液疾患の病気でも陽性になります。便潜血検査陽性の場合は出血場所を確認するために、さらに詳しい精密検査が必要になります。